

《個人会員からの推薦の声》

当協会も設立から16年目。これまで、現役CFOや明日のCFOを目指す多くの個人会員に参画いただいてまいりました。今回は、当協会グローバルCFO資格をお持ちで、積極的に自身のキャリアアップをはかっておられる会員からの推薦の言葉をご紹介します。

CFO業務の変化を体験すればするほど、 当協会への所属メリットを感じざるをえません。

小島 秀毅 (こじま ひでたか)

米国公認会計士、日本CFO協会グローバルCFO、
三菱商事 ライフサイエンス事業開発室 投資戦略担当マネージャー



これまで、アドバイザーと事業会社の双方の立場から、様々な企業の全社戦略の立案と実行に携わってきました。そうした経験から、CFOのミッションがここ数年、随分と様変わりしているのを感じています。以前のCFOは経理・財務の専門家といったイメージが強かったのですが、現在の職務範囲は非常に多岐にわたっています。また、2015年6月に適用されたコーポレートガバナンス・コードにより、ステークホルダーとの対話も今まで以上に重要なテーマとなりました。

CFOのミッションの中で特に私が大事だと考えているのが、CEOの戦略的意思決定に対するサポートを通じて企業価値を向上させることです。何故なら、CFOは社内組織上、主要な経営情報にアクセスできる権限を有しており、且つ、全社視点で経営判断を行うことが求められているからです。そのためには従来の経理・財務の領域の知見に留まらず、事業そのものや経営全般について理解し、俯瞰できる力が不可欠となります。また、現場に戦略をきちんと浸透させると共に、実行できる人材を揃え、部下を率いていく強いリーダーシップも求められます。

CFO人材の育成という観点から、当協会が果たす役割は非常に大きいと日々感じています。日本企業が今後、益々グローバル企業との競争にさらされる中で、CFO人材の育成力が、そのまま企業の競争力に直結するケースをいくつも目の当たりにしてきました。当協会は各種セミナーや様々な部会の開催により、ネットワークの構築を促しています。また、CFO FORUM等を通じて、最新の経営トピックスに触れられる機会もあります。将来、CFOという立場から事業経営に携わりたい方にとっては勿論、事業経営全般についての知見の獲得やネットワーク構築のためにも、当協会に所属しているメリットは大きいと感じます。



三菱商事にはCFOをはじめ、経営人材としての経験を積むことができる機会がたくさんあります。私自身も三菱商事の「事業経営モデル構築」及び「経営人材育成」の一翼を担うべく、引き続き当協会のリソースを活用し、自己研鑽に励みたいと思っています。

左写真：[2016年7月に開催された第15回ビジネス交流会@三菱クラブ]
様々な企業の経営幹部が集まるビジネス交流会にて講師を担当する小島氏。